



## 写真でみる滋賀大学の歴史

滋賀大学創立70周年記念誌

# The History of Shiga University



# 写真でみる滋賀大学の歴史

滋賀大学創立70周年記念誌

The History of Shiga University





## 写真でみる滋賀大学の歴史

滋賀大学創立70周年記念誌

The History of Shiga University

### 目次

---

学長あいさつ	4
第1章 創立から50周年に向けて 開学前史・1949年-1998年	5
第2章 50周年から法人化へ 1999年-2004年	11
第3章 国立大学法人としての歩み -60周年に向けて- 2005年-2009年	19
第4章 文理融合型大学への展開 -70周年に向けて- 2010年-	29
第5章 きらきら輝くキャンパス	43
滋賀大学70年の歩み	50
創立70周年記念ロゴマークについて	52

# 学長あいさつ

## 滋賀大学創立70周年を迎えて 滋賀大学3.0「きらきら輝く滋賀大学」へ

滋賀大学は1949年5月31日に、小学校教員伝習所に始まる滋賀師範学校と彦根高等商業学校を母体に、教育学部と経済学部の2学部からなる新制国立大学として創設された。これは戦後の高等教育を全国あまねく普及させ、日本の復興と発展の礎とするべく設立されたものである。それから70年が経つ。この間、滋賀大学は着実に発展を遂げ、2017年には第3の学部として、日本初のデータサイエンス学部を創設して、今日に至っている。

創立70周年を迎えるにあたり、この写真集を編むこととした。これまで創立40周年には『滋賀大学史』を、50周年には『滋賀大学史一五十周年を迎えて』を刊行して、40年間及びその後の10年間の本学発展の道程を詳細に明らかにしてきた。しかし、それから今に至る20年間の滋賀大学は極めて激しい荒波の中を航海しており、いまだ平穏な海にたどりついていないため、この20年間については歴史を詳述する時期ではないと判断して、70年史を編纂するのではなく、イメージでこの70年を振り返ることとした。

この20年間の航海は、それまでにならぬ荒波に漕ぎ出すことを余儀なくされている。最大の出来事は、15年前の国立大学の法人化であった。それは単に法的地位の変更にとどまらず、6年ごとの中期目標と計画を策定して、国立大学のそれぞれ独自の改革と更なる発展を促すものであった。これにより国立大学が自由にその運営を決定できるものと期待されたが、実際には、運営費交付金の漸減と各大学評価に



基づく予算配分を伴ったため、教育と経済の2学部のみからなる本学の改革と発展には、とりわけ厳しいものがあった。我々はこの時期を「滋賀大学2.0」と呼ぼう。

起死回生の策が第2中期の終盤に決定された。我が国初のデータサイエンス(以下「DS」と略称)学部の創設である。第3中期に入ってまずDS教育研究センターを設置して準備を整えたいうで、学生定員100名、教員18名からなるDS学部が2017年に誕生した。本学は長い伝統のうえに、最先端の学部を備えることとなり、さらに新しく5本の柱からなる「イノベーション構想—きらきら輝く滋賀大学」を発表し、新時代を切り開いて行きつつある。すなわち、「文理融合型大学」、「グローバル化」、「研究する大学」、「社会の中の大学」そして「機動力・行動力のある大学」である。ここに、「滋賀大学3.0」が始まった。幸いDS学部への社会の期待と

ニーズは極めて大きく、DS教育研究センター発足後今日まで企業や自治体との50件に近い連携協定と100件を超える共同研究等の提携が実を結んでいる。また既存の教育学部は教職大学院設置と連合大学院参加、経済学部は学部改組を経て、それぞれ一層活発な教育研究活動を展開している。

本写真集は、こうした滋賀大学発展の歴史をイメージで示そうとしたものである。学内外を問わずできる限りの写真の収集に努め、出来上がった。70年史構想の企画、編集、発行に尽力された教職員、学生、そして関係協力者の皆さんに厚く御礼申し上げますとともに、新しい姿を築きつつある滋賀大学の来し方を想い起こし、大輪の花を咲かせようとしている行く末を思い描いていただくことができれば、幸いこれにすぐるものはない。

国立大学法人滋賀大学長

位田 隆一

## 第1章

# 創立から50周年に向けて

開学前史・1949年-1998年

---

昭和24(1949)年5月31日、滋賀大学は、県内の高等教育機関【明治8(1875)年に設立された滋賀師範学校等の県における教員養成教育機関と、大正11(1922)年に設立された彦根高等商業学校を前身とする彦根経済専門学校】を統合し、学芸学部(のちの教育学部)と経済学部からなる大学として創立されました。創立以来、1980年代頃までの日本経済の成長期において、県内唯一の4年制大学として地域の高等教育に貢献し、県内外の教育機関及び日本の経済界に優れた人材を輩出してきました。元号が平成となった1990年代には、日本経済の構造変化に対応した新しい高等教育機関としての役割をふまえた発展の道を探求し、新学部設置の検討や、グローバル化へ対応した教育研究の国際化、社会・地域との連携を強化する改革を進めてきました。

70<sup>th</sup>

## 創立時のキャンパス



彦根高等商業学校講堂 1927 (建設は1924)



滋賀大学開学当時の彦根地区正門風景 1949



彦根地区 堀から正門を望む



開学当時の彦根地区全風景



膳所地区(教育学部の石山地区移転前)



教育学部  
(石山地区移転後、現在の建物への改築前)



附属学校 1933



附属学校 1945



附属小学校運動会 1949



## 50周年に向けて



経済学部70周年記念祝賀会を開催し、“古希”を祝う 1993  
宇野元総理の発声で乾杯する関係者



滋賀大学経済学部で学科改組・新設し、第二校舎棟竣工記念行事を挙げる 1994  
新営の校舎棟玄関でテープカットをする尾上学長ほか



教育学部と附属小学校の創立120周年を祝う 1995  
児童生徒による全校音楽会(大津市民会館)



滋賀大学経済短期大学部が開学 1996  
閉学記念式典で挨拶する加藤学長



ありし日の「滋賀大学経済短期大学部」門標

# 社会に開かれた大学を目指して



「日米大学長シンポジウム  
—文明と科学技術の発展における大学の役割—」1994  
シンポジウムの様子(彦根プリンスホテル)



シンポジウムのパンフレット



阪神淡路大震災時、  
滋賀大から救援物資を神戸へ 1995  
マイクロバスで出発する救援隊



「21世紀の工学のフロンティア  
—滋賀大学社会工学部(仮称)の創設に向けて—」  
1996  
開会挨拶を行う加藤学長



100名を越すシンポジウム参加者

## 創立から50周年に向けて 開学前史・1949年-1998年



滋賀大学陵水会館が国の登録有形文化財に登録される 1997  
ヴォーリズの設計により1938年建築



附属養護学校創立20周年を祝う 1997  
「あしあと・てあと展」を開催



附属中学校創立50周年を祝う 1997  
式典での生徒合唱



滋賀環境ビジネスメッセ'98に出展 1998  
会場を視察する加藤学長

## 第2章

# 50周年から法人化へ

1999年-2004年

---

平成11(1999)年、滋賀大学は創立50年を迎えました。そして世紀も改まり21世紀へと入っていきます。そのような節目に合わせるように滋賀大学も大きな転機を迎えます。国立大学法人化です。法人化により滋賀大学は、独立の経営体として、社会からその機能や社会貢献への評価を受ける存在へと変わります。法人化に向けては、その在り方をめぐり他大学との統合の可能性も含めた多様かつ密度の高い議論が行われました。それと並行して自らの機能を高めるための諸改革が進められました。結果として、滋賀大学は単独で、教育・経済学部の2学部の大学として法人化に臨むことを選択し、国立大学法人としての新たな道を歩むこととなります。

70<sup>th</sup>

## 50周年当時の滋賀大学



滋賀大学創立50周年記念式典を開催 1999  
祝賀会での鏡割り



新たなデザインの学旗を披露する加藤学長



教育実習事前指導・フレンドシップ事業  
「子どもふれあい教室『筆で遊ぼう』」を  
教育学部で開催 1999  
熱心に取り組む子どもたち



事務系職員OB会「淡海会」を発足 2000  
出席者一同で記念写真



経済学部講堂が国の登録有形文化財に登録される  
2001

1924年建築で、唯一現存する彦根高等商業学校  
創立当時の建物



学生寮「偲聖寮」の耐震・機能改修 2000  
改修を終えた「偲聖寮」



石山キャンパス学園祭「紫雅祭」2000  
屋外での吹奏楽団による演奏



滋賀大学オープンキャンパスを開催(2001より改称)  
開会挨拶を行う宮本学長



大学紹介ビデオ「Welcome」の作成 2002  
ジャーナリストの大谷昭宏氏を囲んでの撮影



談笑する大谷昭宏氏(左)と宮本学長、轟木事務局長

## 50周年から法人化へ 1999年-2004年



彦根キャンパスにオープンカフェ  
Lagunaが誕生 2003  
宮本学長らによるテープカット



「経済学部創立80周年記念フォーラム  
-変革期における21世紀の企業経営を考える-」  
2003  
挨拶を行う宮本学長



経済学部の創立80周年を祝う 2003  
合唱団(OB)とオーケストラ部(学生)による学歌・校歌斉唱



「びわ湖学生festival2003」  
(13大学合同交流会)に参加  
本学オーケストラ部と他の3大学による合同演奏



韓国国史編纂委員会による  
旧制彦根高商資料の撮影 2004  
撮影資料の一部(経済経営研究所所蔵)

## 社会との連携への取り組み



おうみまちづくりフォーラム1 2001  
コーディネーターを務める北村経済学部教員



滋賀大学産業共同研究センター  
開設記念式典を開催 2001  
新たな体制となったセンターの紹介を行う  
大村産業共同研究センター長



滋賀大学地域連携センターを設置 2002  
銘板を掲げる宮本学長と小川地域連携センター長



大学院経済学研究科博士後期課程「経済経営リスク専攻」の設置を祝う 2003  
祝辞を述べる国松滋賀県知事





公開講演会「リスク時代の経済運営と企業経営」2003  
パネルディスカッションの様子(司会は宮本学長)



大津サテライトプラザを開設 2003  
サテライトを見学する来訪者



滋賀医科大学、滋賀大学、立命館大学  
及び龍谷大学間の学術研究交流・  
産学連携推進に関する協定締結 2004  
協定書に署名する各大学の学長



彦根キャンパス構内にイルミネーションが点灯  
2003  
夜の構内を灯りが彩る

# 国際化への取り組み



タイ国チェンマイ大学と大学間交流協定締結  
1999  
協定書に署名する加藤学長とChoti Theetranont学長



中国湘潭大学と学生交流協定締結 2000  
協定書を交す川嶋副学長と陳副学長



国際交流会館が竣工 2000  
雪降る中での加藤学長らによるテープカット



大韓民国啓明大学と学術交流協定を締結 2003  
協定書を交す宮本学長と申学長

## 法人化への取り組み



全学フォーラム  
「滋賀医科大学との統合・再編について」2001  
統合・再編について説明する宮本学長



フォーラムの様子



滋賀大学教育学部・京都教育大学  
共催によるフォーラム  
「新しい時代の教員養成を目指して」2001  
挨拶する宮本学長



法人化及び再編・統合に関する  
全学フォーラムを開催 2003  
統合・再編について説明する宮本学長(大津地区)



説明を聞く参加者(彦根地区)

## 第3章

# 国立大学法人としての歩み — 60周年に向けて —

2005年-2009年

---

国立大学法人化後の滋賀大学は、教育研究を一層充実させるとともに、新たな社会のニーズに応え機能を強化するための改革を進めていきます。その柱は、社会に開かれた大学としての機能の強化、グローバル化に対応した教育研究機能の強化、そして社会すなわちステークホルダーに対して説明責任を果たす機能の強化です。これらは「象牙の塔」というイメージで語られる大学から、社会の中の大学へと転換を図るための取り組みでした。滋賀の地に立地する高等教育研究機関として、地域の知と世界の知を結節し循環させ、新しい知と価値を創造する拠点としての役割を担うべく改革が進められたのです。

70<sup>th</sup>

## 社会に開かれた大学



経済学部創立80周年記念  
「陵水学習教育支援室」オープン 2005  
銘板を掲げる阿知羅経済学部長と堀川陵水会理事長



彦根城築城400年祭《談話室》  
それぞれの彦根物語 2006  
阿部経済学部教員からの話題提供



国宝・彦根城築城400年祭滋賀大学協賛事業  
「大老料理を食べよう」を開催 2007  
挨拶する成瀬学長



再現された「大老料理」



滋賀大学キャンパスパビリオン「士魂商才館」を開催 2007  
「士魂商才館」はもともとキャンパスの歴史について展示する  
パビリオンの名称だった



世ノ一教育学部教員デザインによる  
ボディラッピングされたバス

バイオ燃料で走るBDFバスを導入 2008  
挨拶する近藤副学長



滋賀大学を会場に井伊直弼と開国150年祭事業  
「ひこね開国フェスタ」が開催 2009  
成瀬学長とひこにゃん



学生たちが「第2回ゆるキャラまつりin彦根」を  
通じて地域貢献 2009  
滋賀大で生まれたゆるキャラ「カモンちゃん」を  
紹介する学生たち



ひこにゃん&カモンちゃん

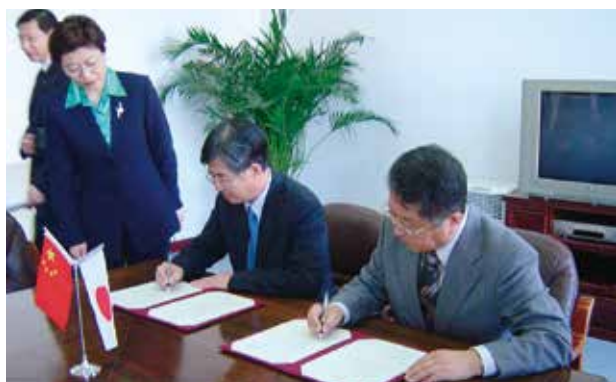
## さらなる国際化に向けて



**タイのチェンマイ大学とチェンマイ・ラジャパット大学、  
ヴェトナムのハノイ師範大学訪問 2005**  
ハノイ師範大学で学生交流協定の署名を行う  
成瀬学長とバオ学長



チェンマイ・ラジャパット大学長を  
表敬訪問する成瀬学長



**中国・東北财经大学を訪問し、  
協定締結等で協議 2005**  
学生交流協定に署名する成瀬学長と于主席



**留学生見学旅行 2006**  
白糸の滝(静岡県富士宮市)での1コマ



**ハノイ国民経済大学と学术交流に  
関する覚書を交換 2006**  
覚書に署名する小田野リスク研究センター長と  
グエン ニュ ビン国際経済担当副研究科長



滋賀大学・東北財経大学共同シンポジウム  
「日本・円、中国・人民元の今後と日中経済関係」  
2006

溝口国際金融情報センター理事長の基調講演



アメリカ総領事ラッセル氏の講演会  
「アメリカと日本—2つの国と1つの世界—」2007  
講演会の様子



マレーシア滋賀大学同窓会が結成 2007  
Chongマレーシア滋賀大学同窓会会長の挨拶



モンゴル人文大学と学術交流協定を締結 2007  
署名された協定書を手にする成瀬学長と  
B.Chuluundorj学長



「マレーシア滋賀大学同窓会」  
結成パーティに参加した卒業生



教育学部長と留学生との懇談会が開催 2008  
懇談会は毎年開催





SIFE国内大会で滋賀大学が優勝、  
日本代表として世界大会へ 2007  
国内大会の様子



世界大会オープニングラウンド発表後の様子



オーストラリア・ディーキン大学で  
職員研修を実施 2008  
Stubbs大学附属英語学校長(写真中央)と  
滋賀大学教職員



マレーシア・テナガショナル大学と  
交流に関する覚書に調印 2009  
調印を終えて握手する成瀬学長と  
Dr Shaari Md.Nor副学長



タイ・チェンマイに遠征  
「滋チェン戦」スポーツ交流で成果を収める 2009  
バスケットボールの対抗戦  
(VSチェンマイラジャパット大学)



開会式でのムエタイの演武

## 60周年と「滋賀大学憲章」



創立60周年記念企画「鶴房健蔵作品展」を開催  
2009

鶴房建蔵氏と作品「湖彩」



創立60周年記念企画コンサートを開催 2009

オーケストラ部による演奏



創立60周年記念企画  
「邦楽演奏&マジックショー」を開催 2009

邦楽部による演奏



マジック同好会によるカードマジック



教育学部創造学習センター竣工式を挙  
行  
2009

センター玄関でテープカットをする成瀬学長ほか



竣工した教育学部創造学習センターの全景



滋賀大学創立60周年記念行事を挙  
行  
2009

祝辞を述べる嘉田滋賀県知事



関係者による鏡開き

# 滋賀大学憲章

## 知の21世紀をきり拓く

### — 湖国から世界へ —

#### 前文

滋賀大学は、近江の歴史と文化を背景とした滋賀師範学校と彦根高等商業学校を母体とし、昭和24年、新制大学として発足した。その後、新制大学としての使命を果たすべく、大学院や各種センターの設置を含む教育研究組織の整備拡充と教育研究の発展に努め、各界に多数の有為の人材を送り出してきた。平成12年には、「知の21世紀をきり拓く：滋賀大学の理念」を策定し、3C(創造Creation、協同Cooperation、貢献Contribution)を合言葉に、競争的環境の中での滋賀大学の個性化と不断の教育研究改善の決意を表明した。

平成16年4月、滋賀大学は、国立大学法人としての一步を踏み出した。しかし、いま周囲に目を転ずれば、グローバル化の進展や知識基盤社会の到来、地球環境の急速な悪化、価値観の多様化、少子化問題など、国立大学法人を取り巻く状況は急変している。こうした認識に立ち、滋賀大学は、時代に先駆けて主体的に自己変革を遂げるため、新たに基本理念を明らかにする。併せて目標と行動指針を定める。

#### 基本理念

滋賀大学は、豊かな人間性とグローバルな視野を備えた専門性の高い職業人の養成と、創造的な学術研究への挑戦を通して、人類と社会の持続可能な発展に貢献する。

さらに、3Cスピリットをふまえ、知の21世紀をきり拓くため、  
(1)先進的な教育研究  
(2)国際的連携の推進  
(3)市民的公共心  
を掲げ、「琵琶湖世界 BIWAKO Cosmos」から世界へのつながりを拓く。

#### 目標

##### 教育：知の継承

滋賀大学は、学生の主体性を尊重しつつ、幅広い教養と高度な専門知識を育む教育を追求する。とりわけ、滋賀の歴史と文化の継承と発展、及び琵琶湖を起点とする自然環境の保全を実現する特色ある教育を追求する。また、グローバルな視野を育て、国際理解を深める教育の充実に努める。

##### 研究：知の開拓

滋賀大学は、学術文化の向上に資する先進的、創造的、学際的な研究に取り組み、理論的研究と実践的研究の融合を図り、卓越した水準の研究を推進するとともに、新たな学術分野を開拓し、その成果を世界に発信する。

##### 社会貢献：知の還元

滋賀大学は、教育と研究の成果及び大学が有する知的資源を還元することにより、地域社会との多様な連携を積極的に構築し、開かれた大学として、地域社会の発展に寄与する。以上の目標を達成するため、運営の自律性と経営の透明性を確保し、大学としての説明責任を果たすことにより社会の信頼に応える。

#### 行動方針

滋賀大学の教職員と学生は、地域社会及び国際社会の一員であることを自覚し、心と力をあわせ、以下の指針にかなう行動を通じて、基本理念の実現と目標の達成に努力します。

1. 人権 人権侵害のない大学の実現を目指します。
2. 教育 学生起点の発想に立った大学教育を行います。
3. 研究 研究の自由を尊重し、質の高い研究に取り組みます。
4. 連携 社会との連携・共存を図り、地域に貢献します。

5. 環境 環境マインドを醸成し、自然との共生と資源保護の活動に努めます。
6. 協働 協働を合言葉に、大学の諸活動に積極的に参加します。
7. 公開 経営の透明性を確保し、正確な情報を積極的に公開します。
8. 順守 大学の構成員としての自覚を深め、法令及び学内規程等を順守します。

(創立60周年を記念して 平成21年9月1日制定)



「歴代学長・事務局長・  
名誉教授を囲む会」を開催 2009  
説明に耳を傾ける歴代学長・事務局長ら



会場の様子



朝日・大学パートナーズシンポジウム  
「近江商人に学ぶー危機に克つ  
『三方よし』」を開催 2009  
講演する丹羽伊藤忠商事株式会社取締役会長



パネルディスカッション

# 文理融合型大学への展開 —70周年に向けて—

2010年-

平成20年代後半(2010年代)には、国立大学への改革の要請は一層強くなりました。国立大学の機能強化を実現する経営戦略を持つように求められ、教育研究の発展やイノベーション創出などに最大限貢献できる組織へ自ら転換していくことが課題となったのです。滋賀大学は、それにこたえる改革をこれまで2段階で進めようとしてきました。第1段階は、第2期中期目標計画期間【平成22～27(2010～2015)年】における、文理融合型大学への転換を進める取り組みです。やがてこの路線が、創立以来初となる新学部=データサイエンス学部の設立(平成29(2017)年)として結実します。そして平成28(2016)年からの第3期においては、改革第2段階として、文理融合型大学、グローバル化、研究する大学、社会の中の大学、行動力・機動力大学、という5つを改革の柱としたイノベーション構想の下、取り組みを進めています。

## 変革に向けての取り組み



マスコットキャラクター  
「カモンちゃん」に年賀状 2010  
頂いた年賀状の前で



心のこもった年賀状



台湾の高雄市に遠征してスポーツ交流  
「滋高戦2010」2010  
カヌー体験(蓮池潭にて)



丹羽伊藤忠商事株式会社取締役会長に  
「名誉博士称号」(第1号)を授与 2010  
滋賀大学名誉博士の称号授与式の様子



滋賀大学SIFE、日本チーム初の  
世界大会セミファイナル進出 2010  
予選ラウンド突破後の表彰式



国内大会表彰式の様子



【経済学部附属史料館】平成23年度企画展  
「江戸時代の近江を旅するー湖東・湖北の名所を中心にー」を開催 2011  
市立西保育園のかわいい園児たちも見学



講演会「東日本大震災とボランティア活動」  
を開催 2011  
大学院経済学研究科 橋本氏の報告(彦根会場)



経済学部講演会「J.S.バッハ VS G.F.ヘンデル  
～聖と俗のはざ間で～」を開催 2011  
美しいデュオ フルート(京都市立芸術大学 大嶋義実教授)  
とチェンバロ(プラハ芸術アカデミー ヤロスラフ・トゥーマ准  
教授)



「東日本大震災後の1年を顧みる」  
シンポジウムを開催 2012  
佐和学長による基調講演



パネルディスカッション





彦根キャンパスで「豊かさのものがし〜湖国の宝さがし」  
(びわ湖放送で全12回放送)の収録 2012  
学長室での収録の様子



市内での収録風景



「滋賀大マルシェ」  
一環境こだわり農産物秋の収穫祭一を開催  
2012  
真っ赤なトマトが並ぶ



リスク研究センターが日韓広域連合の  
協業覚書の締結を実現 2012  
調印後、握手を交す  
中塚関西広域連合事務局長、久保リスク研究センター長、  
朴大慶圏広域経済発展委員会事務総長



海外姉妹校  
一韓国教員大学校附設美湖<sup>ミホ</sup>中学校一との  
交流プログラムを実施 2012  
歓迎集会での美湖中生による短篇「アリラン」演奏



剣道体験で構えや竹刀の振り方を習う



経済学部グラウンドに天然芝の植え付け 2013  
雨の中、一生懸命芝生を植える学生



植えた芝生が根付くように苗を踏み歩く学生



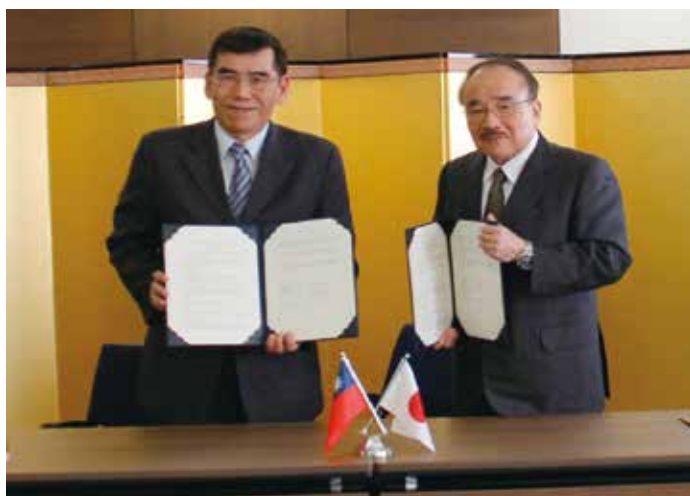
経済学部グラウンド天然芝生化記念式典を挙げる 2013  
佐和学長による挨拶



祝福にかけつけたOB諸兄



「生涯学習まちづくりワークショップin滋賀  
—まちづくりは人づくり、みんなで学びみんなで創る—」を開催 2013  
佐和学長による挨拶

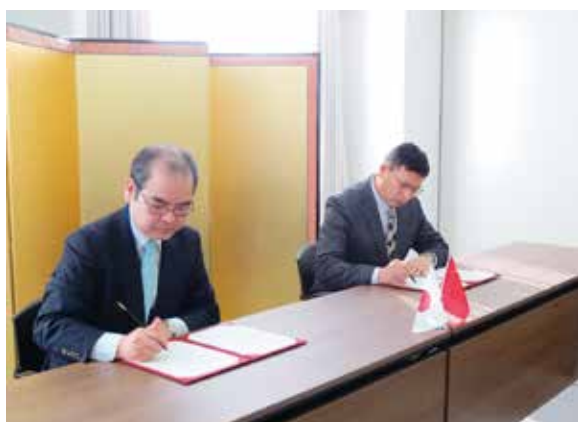


国立台中科技大学とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結 2015

ダブル・ディグリー・プログラムの覚書を手にも李学長と佐和学長



ミャンマー国際人材育成協力事業「ミャンマー国公務員研修」を開催 2015  
最終プレゼンテーション



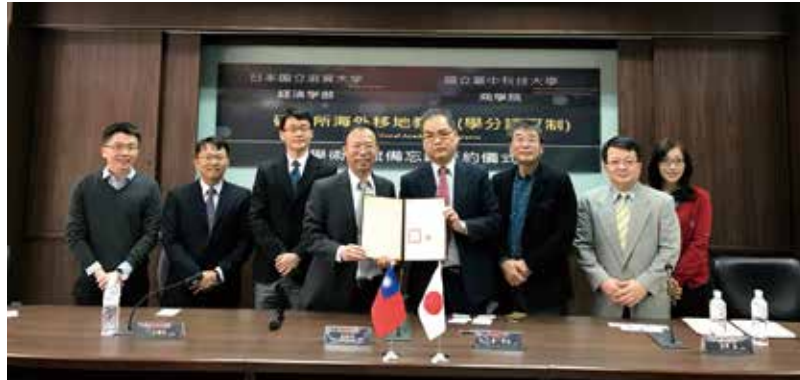
東北財経大学と5.5年国際連携一貫教育プログラムに関する協定を締結 2015

協定書に署名する小倉経済学部長と張国際交流処長

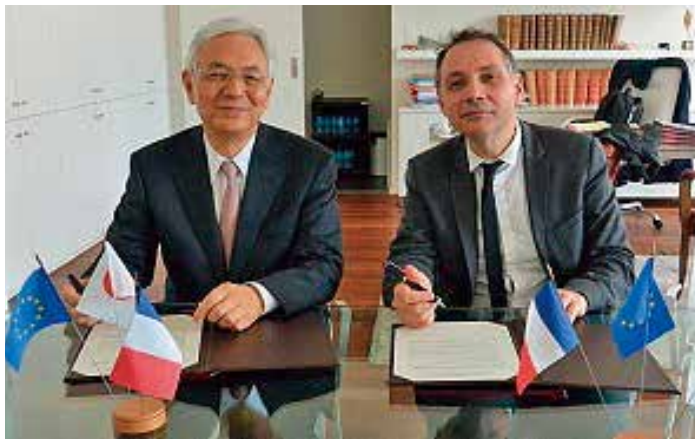


国立高雄師範大学と大学間交流協定を締結 2016

辻教育学部教員(位田学長の代理)と呉校長による交流協定の締結



国立台中科技大学商学院との間で部局間の  
連携協定を締結 2017  
 載商学院長と小倉経済学部長による連携協定の締結



レンヌ第一大学(フランス)と交流協定を締結 2018  
 協定書に署名する位田学長とダヴィッド・アリス学長



レンヌ大学国際部での記念撮影



「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018」  
 に参加 2018  
 会場の様子



湖南師範大学関係者との会談の様子



蔵元藤居本家での留学生による酒仕込体験 2015  
一生懸命に作業中



グローバルプラザの開所式を開催 2018  
位田学長、板東国際センター副センター長による除幕式の様子



西部カトリック大学(フランス)を表敬訪問 2018  
協定に基づく今後の交流について会談を終えた  
位田学長とドミニク・ヴェルメルシュ学長



チュニス・エル・マナール大学(チュニジア)と  
交流協定を締結 2018  
協定書を手に握手を交わす位田学長とFethi Sellaouti学長



うちごはん農園〈菜園プログラム〉2014  
環境こだわり農業を実践中



おうみ学術出版会の誕生 2015  
滋賀大学・滋賀県立大学・サンライズ出版が  
学術出版事業推進協定を締結



出版会のマークは「淡海」の「淡」の字を図案化したものです



しがだい資料展示コーナー関連講演会  
「講談：数寄者井伊直弼」2016  
旭堂南海師の講談に聞き入る市民の皆さん



滋賀大マルシェ2017  
「環境こだわり農産物 秋の収穫祭」を開催 2017  
マルシェを楽しむ晴れの下のカモンちゃん

## 文理融合型大学への展開



我が国初のデータサイエンス教育研究センターの開設式典を挙げる 2016  
挨拶をする位田学長



滋賀大学データサイエンスシンポジウム  
「データサイエンスとは何だろうか?」を開催 2016  
シンポジウム参加者の様子



講演を行う竹村データサイエンス  
教育研究センター長



データサイエンス学部  
プレオープンイベントを開催 2016  
模擬講義「ゼロから始めるデータ分析」の様子



パソコンを使った模擬演習の様子



教職大学院開設記念講演会  
「これからの滋賀の教育をつくる」を開催 2017  
開会の挨拶をする位田学長



講演する青木滋賀県教育委員会教育長





データサイエンス教育ワークショップ  
「高等教育におけるデータサイエンス教育の  
新たな展開」を開催 2017  
挨拶をする位田学長

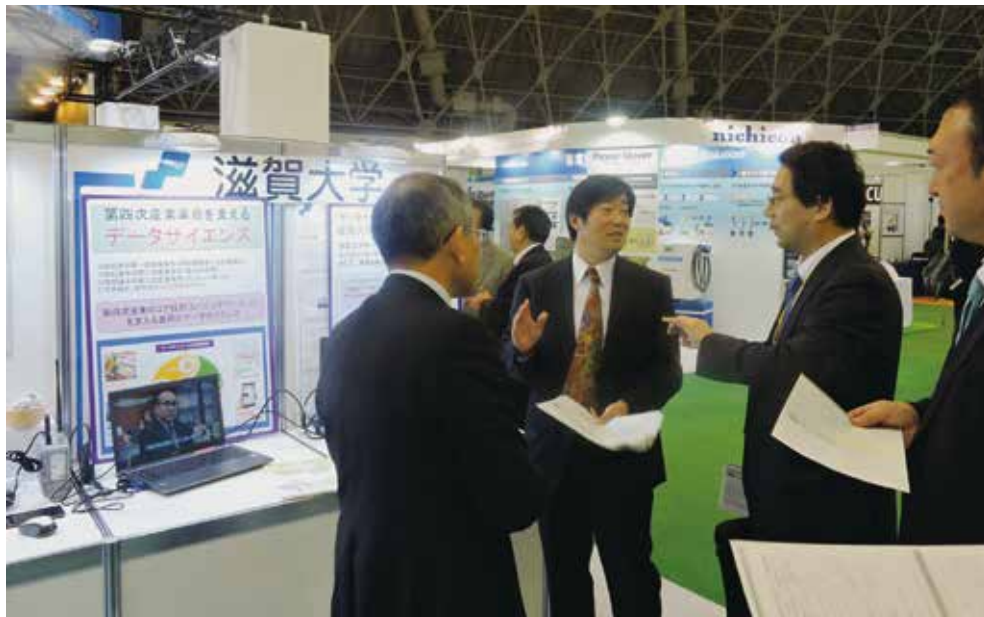
講演する伊達データサイエンス学部教員



滋賀大学データサイエンス学部創設記念式典、  
記念講演、祝賀会を開催 2017  
記念式典の様子



滋賀経済同友会と包括的連携協定を締結 2017 関係者との記念撮影  
 協定書を手に北代表幹事、位田学長、大日代表幹事



びわ湖環境ビジネスメッセ  
 2017に出展 2017  
 内閣府地方創生推進事務局  
 からの視察



多くの来場者が本学ブースを訪問



エジプト統計局職員が滋賀大を来訪 2018  
歓迎の挨拶をする位田学長



関係者との記念撮影



日経ユニバーシティー・コンソーシアム  
「データサイエンスが拓く  
未来フォーラム2018」を開催 2018  
データサイエンス人材の育成についての  
パネルディスカッション



クローズアップ対談の様子

## きらきら輝くキャンパス

---

データサイエンス学部を設立し文理融合型大学への道を歩み始めた滋賀大学は、学生教職員一人一人そして大学が地域とともに輝くために進みます。今大学には、SDGs(持続的開発のための目標)の達成やSociety 5.0の実現など、経済社会の課題と構造変化に対応し未来を切り開いていくことへ貢献しうる大学への転換が求められています。国立大学としての創立からの歩みをversion 1.0の滋賀大学、そして国立大学法人化後の歩みをversion 2.0の滋賀大学とすれば、この新たな大学像への変革の実現に向けて歩いていく滋賀大学は、滋賀大学version 3.0とも言えます。70周年を機として新生した滋賀大学として、きらきら輝く大学をこれからも目指していきます。

70<sup>th</sup>

## 知と文化の拠点として



滋賀大学文化事業  
「狂言と音楽の夕べ」を開催 2018  
来場者に挨拶する位田学長



当日のチラシとプログラム



教育学部附属中学校の生徒に学長特別表彰 2014  
「第1回科学の甲子園ジュニア全国大会」で優勝し  
文部科学大臣賞を受賞した生徒たち



教育学部附属小学校校内音楽会を開催 2017  
会場の様子



附属小学校合唱団に学長特別表彰 2017  
第84回NHK全国学校音楽コンクールにおける受賞をたたえる



第1回学長サロンを開催 2017  
位田学長に直接話すことができる学長サロンの様子



おうみ学術出版会の出版物 2018  
創刊冊(左端)からの3冊



経済学部附属史料館収蔵の「菅浦文書」が国宝に指定 2018

史料館企画展では  
「菅浦文書国宝指定記念 中世近江の惣村文書」を開催



家政教育講座における卒業間際の手作り  
お菓子パーティー開催 2017



琵琶湖漕艇場での学内レガッタ 2018



正課体育 スポーツ科学(スキー教室) 2004(青木湖スキー場)



二宮経済学部教員マクロ金融論ゼミが東証アローズを見学 2018



2017経営学合同ゼミ合宿(澤木経済学部教員ゼミの発表)



2017日本学生経済ゼミナール大会 インター大会決勝



## きらきら輝くキャンパス



CIEL2016七夕祭り 地域商店街の方々の出店



2017彦根ばやしに学生が参加



メキシコ語学・文化研修2018のエクスカージョンで  
プラスエラス遺跡見学



東北財経大学中国語研修 2005(旅順駅前)



東北財経大学中国語研修 2005(東北財経大学正門前)



台湾・スポーツ交流「滋高戦2016」(野球競技を終えて)



イギリス研修2018(コミュニケーションスキル向上を目指す英語の授業)



ディーキン大学ビジネススクール日本研修2018  
(金箔押し体験)



チェンマイ・ラチャパット大学生が教育学部で短期研修  
2018(びわ湖調査実習の様子)

# 滋賀大学70年の歩み

- 1949(昭和24)年5月 国立学校設置法に基づき、旧制滋賀師範学校、滋賀青年師範学校及び彦根経済専門学校を母体として滋賀大学が発足。師範学校からは学芸学部(4年課程・2年課程)が大津に、経済専門学校からは経済学部(経済学科・経営学科)が彦根に設置。附属図書館及び学芸学部分館が発足。
- 9月 経済学部附設研究機関として滋賀大学経済研究所が発足。
- 1950(昭和25)年3月 経済学部に史料館を設置。
- 1951(昭和26)年3月 学芸学部附属小学校、中学校を設置。
- 1952(昭和27)年12月 経済学部史料館が博物館相当施設に指定。
- 1953(昭和28)年8月 経済短期大学部(経営科[第二部])を併設。
- 1954(昭和29)年11月 滋賀大学経済研究所を滋賀大学日本経済文化研究所と改称。
- 1955(昭和30)年7月 学芸学部附属幼稚園を設置。経済学専攻科(経理経営専攻)を設置。
- 1957(昭和32)年6月 附属図書館経済学部分館を設置。
- 1961(昭和36)年6月 学芸学部が石山地区への新築移転祝賀式を挙行。
- 1964(昭和39)年3月 学芸学部附属中学校が膳所地区への新築移転を完了。
- 1965(昭和40)年3月 学芸学部附属小学校、幼稚園が膳所地区への新築移転を完了。
- 1966(昭和41)年4月 学芸学部を教育学部と改称。教育専攻科(教育専攻)を設置。
- 1967(昭和42)年6月 教育学部に養護学校教員養成課程を設置。経済学部史料館を省令施設として経済学部附属史料館と改称。
- 1969(昭和44)年4月 経済短期大学部経営科を経営学科と改称。
- 1972(昭和47)年4月 経済学部に管理科学科を設置。
- 1973(昭和48)年9月 大学院経済学研究科(経済学専攻、経営学専攻)を設置し、経済学専攻科(経理経営専攻)を廃止。
- 1974(昭和49)年4月 教育学部に幼稚園教員養成課程を設置。
- 1975(昭和50)年4月 教育学部に臨時養護学校教員養成課程を設置。経済短期大学部経営学科に経営管理専攻と経営情報処理専攻の2専攻を設置。
- 9月 滋賀大学日本経済文化研究所を滋賀大学経済経営研究所と改称。
- 1976(昭和51)年5月 教育学部湖沼研究所を省令施設として教育学部附属湖沼実習施設と改称。
- 1977(昭和52)年4月 経済学部に会計学科を設置。
- 1978(昭和53)年4月 保健管理センターを設置。教育学部附属養護学校を設置。
- 1979(昭和54)年6月 教育学部附属養護学校が際川地区への新築移転を完了。
- 1981(昭和56)年4月 特殊教育特別専攻科(精神薄弱教育専攻)を設置し、教育学部の臨時養護学校教員養成課程を廃止。
- 1985(昭和60)年9月 計算センター及び同分室を設置。
- 1989(平成元)年5月 滋賀大学創立40周年記念式典を挙行。
- 1990(平成2)年4月 教育学部に情報科学課程(教育情報コース、環境情報コース)を設置。経済学部に情報管理学科を設置。
- 12月 情報処理センターを設置し、計算センターを廃止。
- 1991(平成3)年4月 大学院教育学研究科(学校教育専攻、障害児教育専攻、教科教育専攻)を設置し、教育専攻科を廃止。経済学部にファイナンス学科を設置。
- 1992(平成4)年4月 教育学部附属教育実践研究指導センターを設置。
- 1993(平成5)年10月 経済学部に社会システム学科を増設、経営学科を企業経営学科に、会計学科を会計情報学科に改組。経済学部の各学科に昼間主コース、夜間主コースを設置。
- 11月 産業共同研究センターを設置。
- 1994(平成6)年6月 生涯学習教育研究センターを設置。
- 1995(平成7)年4月 教育学部附属環境教育湖沼実習センターを設置し、附属湖沼実習施設を廃止。

- 1996(平成8)年4月 経済短期大学部を廃止。
- 1997(平成9)年4月 教育学部の小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程及び幼稚園教員養成課程を一括して学校教育教員養成課程に改組。
- 1999(平成11)年4月 特殊教育特別専攻科の精神薄弱教育専攻を知的障害教育専攻と改称。  
5月 滋賀大学創立50周年記念式典を挙る。
- 2000(平成12)年4月 教育学部附属教育実践研究指導センターを改組し、教育学部附属教育実践総合センターを設置。  
4月 教育学部の情報科学課程を情報教育課程に改組し、環境教育課程を設置。
- 2001(平成13)年4月 留学生センターを設置。大学院教育学研究科学校教育専攻に環境教育専修及び情報教育専修を設置。大学院経済学研究科にグローバル・ファイナンス専攻を設置。
- 2002(平成14)年10月 地域連携センターを設置。
- 2003(平成15)年4月 環境総合研究センターを設置。滋賀大学大津サテライトプラザを開設。  
大学院経済学研究科に博士後期課程経済経営リスク専攻を設置。
- 2004(平成16)年2月 経済学部附属リスク研究センターを設置。  
4月 国立大学法人化により、国立大学法人滋賀大学設置。  
4月 教育学部附属環境教育湖沼実習センターを環境総合研究センターに改組。
- 2006(平成18)年4月 留学生センターを改組し、国際センターを設置。
- 2007(平成19)年4月 大学サテライトプラザ彦根を開設。  
特殊教育特別専攻科知的障害教育専攻を特別支援教育専攻科障害児教育専攻と改称。  
教育学部附属養護学校を教育学部附属特別支援学校と改称。
- 2008(平成20)年3月 環境総合研究センターのびわ湖・瀬田川オブザベトリが完成。
- 2009(平成21)年9月 滋賀大学創立60周年記念式典を挙る。  
11月 教育学部創造学習センターが完成。
- 2012(平成24)年4月 生涯学習教育研究センター、産業共同研究センター、地域連携センターを統合し、社会連携研究センターを設置。教育学部の情報教育課程を学校教育教員養成課程、環境教育課程に再編統合。
- 2013(平成25)年10月 大津サテライトプラザを日本生命大津ビルに移転。
- 2014(平成26)年12月 総合研究棟(土魂商才館)が完成。
- 2015(平成27)年4月 教育学部の環境教育課程を学校教育教員養成課程に再編統合。  
8月 障がい学生支援室を設置。
- 2016(平成28)年3月 経済学部情報処理教育センターを廃止。  
4月 情報機構を設置。データサイエンス教育研究センターを設置。  
6月 基金室を設置。  
8月 高大接続・入試センターを設置。  
9月 大学戦略IR室を設置。
- 2017(平成29)年3月 教育学部の情報教育課程を廃止。  
4月 教育・学生支援機構、研究推進機構を設置。日本セーフティソサイエティ研究センターを設置。  
大学院教育学研究科に専門職学位課程(教職大学院)高度教職実践専攻を設置し、修士課程障害児教育専攻、教科教育専攻を学校教育専攻に再編統合。  
データサイエンス学部データサイエンス学科を新設。
- 2018(平成30)年3月 教育学部の環境教育課程を廃止。  
7月 国際センター分室にグローバルプラザを開設。
- 2019(平成31)年4月 国際交流機構、産学公連携推進機構を設置。  
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)の構成大学に参加。  
大学院データサイエンス研究科データサイエンス専攻(修士課程)を設置。  
6月 滋賀大学創立70周年及び大学院データサイエンス研究科設置記念式典を挙る。

# 創立70周年記念ロゴマークについて



## コンセプト

びわ湖を数字の「7」に見立て、彦根と大津から更なるステップアップを目指すことを表しています。

黄色を使用して滋賀大学がキラキラ輝いていることを表しています。

創立70周年記念ロゴマークは、「学生広報サポートチーム」により考案されました。

大学広報に本学学生の視点を取り入れるべく活動する学生広報サポートチームの詳細は本学HPをご参照ください。

## HPアドレス

[https://www.shiga-u.ac.jp/information/about\\_public/pr\\_support-team/](https://www.shiga-u.ac.jp/information/about_public/pr_support-team/)



## 写真でみる滋賀大学の歴史

滋賀大学創立70周年記念誌

The History of Shiga University

---

発行	平成31年3月
編集者	滋賀大学史編集委員会
発行者	滋賀大学創立70周年記念事業実施委員会 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号
制作・印刷・製本	近江印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

